

総務文教常任委員会所管事務調査報告書

1. はじめに

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から6年が経過いたしました。このような災害は二度と起こってほしくはありませんが、この大震災以降においても、全国各地で地震や、豪雨、台風などによる土砂崩れや河川の氾濫などによる災害が多発しています。

昨年だけを見ても、4月には熊本県及び大分県で最大震度7の地震が、10月には鳥取県中部において、震度6弱の地震が発生し、また、8月の台風10号によっても甚大な被害が発生したことは記憶に新しいところであります。

今後、東日本大震災の被害をはるかに超えると予想される南海トラフ巨大地震の発生も危惧されるなか、地域の防災対策が益々重要となっており、とりわけ避難所整備は、地域防災の中核として大きな役割を担っています。

そこで、本委員会では、「地域防災における避難所整備について」をテーマに、避難所への誘導案内、防災倉庫の現状及び避難所の環境を重点的に調査・検討した結果について報告します。

2. 避難所等の現状調査

本委員会では、政策調整室危機管理グループから提供された資料を確認するとともに、昨年11月2日及び同月11日の2日間、本市の指定避難所となっている市立狭山中学校、市立南中学校、市立第三中学校、市立総合体育館及びさやか公園防災倉庫の5箇所について、次の5項目を重点事項として現地調査し、担当者から説明を受けました。

防災倉庫の設置箇所・設置場所・備蓄状況

避難場所誘導標識の設置状況

避難場所へ入る際のバリアフリー化状況

洋式トイレやシャワーの有無、場所

施設内における避難行動要支援者の避難に備えた特別な場所の有無（畳敷きの部屋など）

3. 調査・検討結果

本委員会が所管する事務の調査として、平成28年（2016年）10月14日以降、各避難所等の現状を調査したうえで、9回にわたり協議・検討し、問題点・

課題点等の整理を経て、次のとおり意見集約を行いました。

防災倉庫について

北部拠点となるさやか公園には、防災備蓄倉庫並びに耐震性貯水槽が整備されており、東大池公園においては、南部拠点となるよう次年度以降で、防災備蓄倉庫並びに耐震性貯水槽の整備を予定しているとのこと。また、一部の地域では、一時の避難場所となるように大規模災害に備え、公園に防災倉庫を設置されています。このような状況を踏まえ、

大阪府が上町断層帯地震Bで想定している大阪狭山市の避難者4,890人に対し、市として約9,000食の備蓄（さやか公園）をしています。分散備蓄（各自治会の避難所など）は理想ですが、分散するとチェックも大変であったり入りきらない問題点があります。

分散備蓄倉庫内資機材一覧に基づき防災倉庫の中は8割型詰まっている状態です。防災倉庫には、現在、食糧は入れておらず、今後段ボール10箱（500食）入れる予定とのことですが、学校のスペースの都合上これが限界であると考えられます。

備蓄食料品も含め、各防災倉庫に備蓄されている物資は絶対数が少ないように思われます。特に、毛布の数は、他の市町村も同様ですが不足しています。毛布は、補助金を活用し来年度も購入予定とのことですが、今後も引き続き必要数の確保に努力すべきです。

防災倉庫は正面だけの標記では、わかりにくいので、正面だけでなく三方向すべてに書く方が良いと思われ（他市ではそのような例があります）。防災倉庫の表示を見やすくする、文字も目立つ色にすることが必要です。また、総合体育館の防災倉庫は、場所が分かりにくいので設置場所への矢印表示が必要です。

各所の防災倉庫のカギは、災害時に市職員が空けることになっていますが、災害時に駆け付け出来ない可能性があります。各所の防災倉庫のカギは、職員室などに置くことはできないか検討する必要があります。また、非常用の備品（給水タンク、大型扇風機など）で組立てが必要な機材の組立て説明書を一冊（コピー）の冊子にし、防災倉庫に備え付けてはどうでしょうか。（避難者に組み立ててもらうことで、職員の負担が軽減できます）

電源コードリール、電源タップについて、コードリールが不足しているように思われます。コードリールは各備蓄倉庫に2個だけですが、各自治会の自主防災組織で常備しているものの現状を把握し、これらを含め計画的に配置して

はのでしょうか。

倉庫（コンテナ）内の整理整頓が必要です。緊急使用時への配慮が不足しています。防災倉庫の備品自体の内容がわかりやすく明記されていません。段ボールの収納箱については、誰にでも中身が分かるよう全ての箱の全面に内容を標記する等工夫すべきです。また、食料品と道具類の置き場所を区分する必要があります。現在、倉庫の整頓が、避難所によってバラバラです。統一できるところは、統一したほうが良いと思われます。

さらに、防災倉庫内が誰でもどこに何が置いてあるのかすぐにわかるように、写真などを棚に貼るなどの工夫が必要です。

避難場所誘導標識について

災害が発生し混乱している状況を想定したうえで、市民をスムーズに避難所へ誘導するためには、現在の誘導標識では十分とは言えません。まちの美観に配慮しつつ、誘導標識を目立つ色に変更するとともに、夜間でもよく見えるように蛍光塗料の使用が必要です。その他、英語・中国語・ハングルなども標記、NTTに協力を得て電話ボックスに設置、循環バスのバス停に設置等を検討する必要があります。また、避難場所誘導掲示については、QRコードで情報を取得できるようにしてはのでしょうか。

避難場所へ入る際のバリアフリー化等について

市立南中学校の正門手前から体育館までが急な坂道となっており、障がい者、高齢者にとって、避難する場合の負担が大きいと思われます。各学校の体育館へのスロープは簡易なものも含め、一応設置されていました。今後は、障がい者、高齢者等の負担軽減に配慮する意味で、これらの坂道（スロープ）部分に「手すり」を取り付けることはできないか検討する必要があります。特に、市立南中学校の急坂については、改善策を検討する必要があります。

洋式トイレやシャワーの設置について

小学校、中学校及びその体育館など、各避難所ではトイレやシャワーの絶対数が不足しており、手すりも設置されていない状況です。体育館のトイレについては、大規模改修等に併せて改修できないか検討する必要があります。また、小学校及び中学校のトイレについては、和式トイレを洋式トイレに改修し、トイレの手すりがいないため、簡易な手すりを取り付けることも併せて検討する必要があると考えます。風呂やシャワーについては、薪ストーブで湯を沸かし、水を循環できるものもあります。比較的安価であり、災害時には他地域への貸し出しも可能ですので、検討してみてもはどうか。

さやか公園には災害用マンホールトイレが14基設けられているとのことですが、トイレの絶対数が不足しているため、簡易トイレの数量をもっと確保すべきです。

避難行動要支援者への配慮について

災害発生時には、施設内における要支援者（高齢者や疾病者など）の避難に備えた特別な場所として、畳の部屋が有効であると考えます。各学校では、用務員室、更衣室、支援学級（中学校などは和室もある）等がありますが、要支援者のための特別な場所を確保する必要があります。また、段ボールベットはありますが、仕切り板も必要であると考えます。

その他

避難者の受け入れ人数は、一人当たり2㎡、指定避難所等14箇所全体で8,784人分のスペースが用意されています。しかし、避難のためにテントを張ったり、車中泊をされても拒めない現状が考えられます。総合体育館は避難所に指定されています（2,485人受入れ）が色々な部屋があるので多目的に活用できると考えます。

ペットの避難場所も必要になるのではないのでしょうか。ペットの対応については、各校区や自主防災組織等で事前に話し合うことが必要ですが、富田林市は、すでに取り組んでいるので参考にすべきではと考えます。

防災かまどベンチや防災収納ベンチは、災害でライフラインが止まった時、何もない中での炊き出しを行う場合、そのベンチの座面を取れば、かまどになったり、収納できる箱になったり、いざという時には有効に利用できます。指定避難所はもとより、地域の防災力の向上のため、それ以外の地域の集会所や公園も含め、防災かまどベンチや防災収納ベンチを設置する必要があります。

夜間や休日に被災した場合の対応について、市立第三中学校と市立第七小学校にのみ震災時の地震解錠BOXがありますが他校では設置されていません。地震解錠ボックスは高価格ですが導入すべきではないのでしょうか。

総合体育館では、アリーナの通気窓に柵があり、開閉しにくい状況となっています。夏場には、風を通すことが有効と考えられますので、アリーナの通気窓の柵の改善が必要です。

実際に避難場所として使用すれば、さらなる改良点が見出せます。防災倉庫の備品を使用した訓練を実施すること。つまり避難場所である学校での避難訓練の実施が必要であると考えます。

各地域によって隣接している市があります。大野地区は河内長野市・堺市と

隣接しており、狭山地区・金剛地区は富田林市と隣接しているなど、市での避難所の相互対応、連絡体制等、協力できることは既に協定を締結されていますが、近隣市との合同による避難訓練の実施等、今後さらに連携を強化する必要があります。

各地区での避難場所の周知徹底はもとより、市民の災害に対する意識を高める必要があります。

以上のように、総務文教常任委員会としての調査結果に基づき、大阪狭山市の地域防災における避難所整備について、市民の安全・安心を確保するため、市長に対し提言いただくよう特段のご配慮をお願いします。

総務文教常任委員会 所管事務調査 協議・検討状況

日 程	内 容
平成28年10月14日	調査テーマ及び調査内容等の検討及び決定
10月31日	現地調査の調査場所、調査スケジュールの決定 避難所チェックリストその他資料の確認等
11月 2日	現地調査（市立南中学校及び市立狭山中学校）
11月11日	現地調査（さやか公園、市立第三中学校及び市立総合 体育館）
11月22日	各委員からの意見・提案の提出等について協議
12月15日	各委員からの意見・提案等の取りまとめ
平成29年 1月12日	問題点・課題点等の整理及び提案等の検討
1月27日	意見集約及び報告書の検討
2月14日	報告書の検討及び決定

総務文教常任委員会委員名簿

区 分	氏 名	所 属 会 派
委員長	徳 村 賢	公 明 党
副委員長	須 田 旭	政風クラブ
委 員	小 原 一 浩	大阪狭山維新の会
委 員	片 岡 由利子	公 明 党
委 員	西 野 滋 胤	大阪維新の会
委 員	松 尾 巧	日本共産党議員団
委 員	丸 山 高 廣	リベラルさやま
委 員	山 本 尚 生	政風クラブ

総務文教常任委員会所管事務調査
(平成28年11月2日現地視察)



南中学校防災倉庫



南中学校防災倉庫



南中学校防災倉庫



南中学校校舎内トイレ



南中学校防災倉庫



南中学校校舎内トイレ



南中学校体育館スロープ



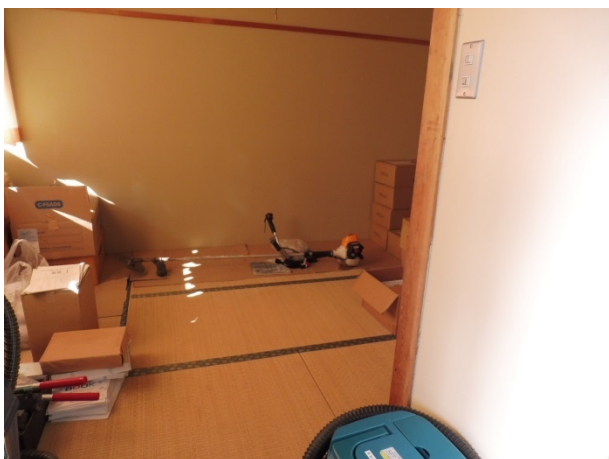
避難誘導標識 (コノミヤ南)



南中学校体育館



狭山中学校防災倉庫



南中学校用務員室



狭山中学校防災倉庫



狭山中学校体育館入口



狭山中学校校舎トイレ



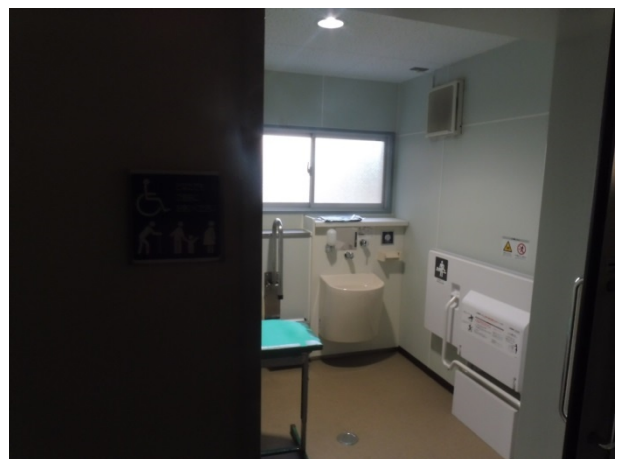
狭山中学校体育館入口



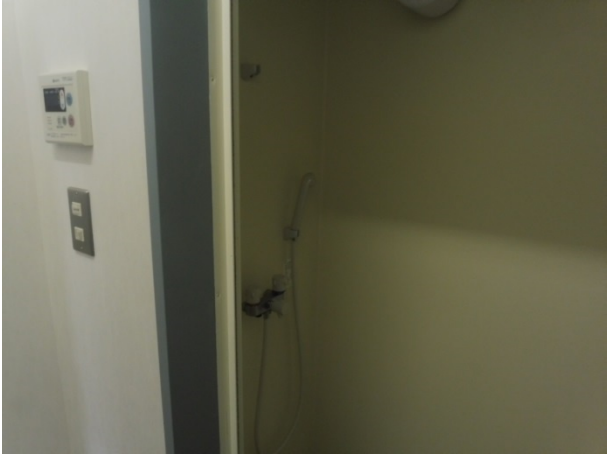
狭山中学校校舎トイレ



狭山中学校体育館



狭山中学校校舎トイレ



狭山中学校更衣室シャワー

総務文教常任委員会所管事務調査
 (平成28年11月11日現地視察)



さやか公園防災倉庫



さやか公園防災倉庫



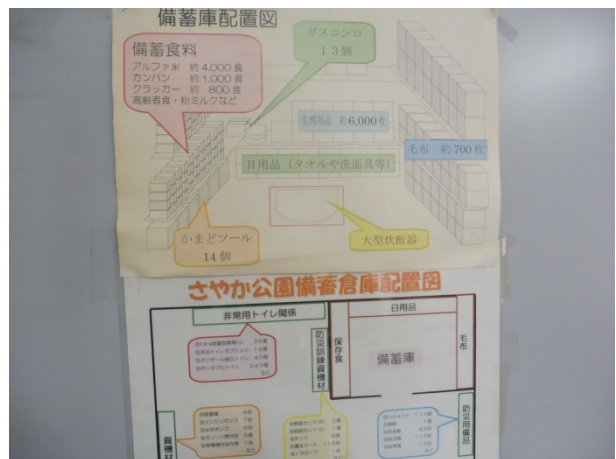
さやか公園防災倉庫



さやか公園防災倉庫



さやか公園防災倉庫



さやか公園防災倉庫



さやか公園災害用マンホールトイレ



さやか公園トイレ



さやか公園災害用マンホールトイレ



第三中学校入口スロープ



さやか公園トイレ



第三中学校防災倉庫



第三中学校男子更衣室



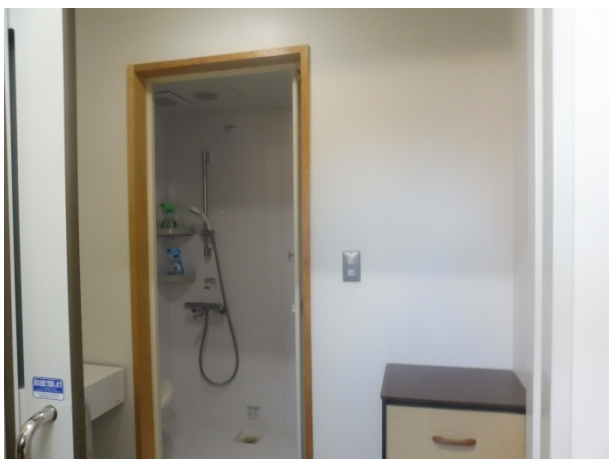
第三中学校くすのき学級



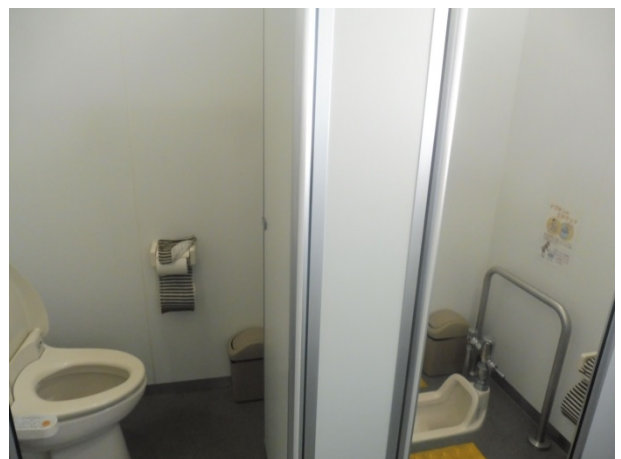
第三中学校トイレ



第三中学校校務員室



第三中学校衛生処理室（シャワー）



第三中学校トイレ



第三中学校体育館入口



総合体育館防災倉庫



第三中学校地震開錠ボックス



総合体育館スロープ



第三中学校地震開錠ボックス



総合体育館入口



総合体育館メインアリーナ



総合体育館シャワー室



総合体育館トイレ



総合体育館トイレ



総合体育館シャワー室



総合体育館トイレ



総合体育館入口スロープ



総合体育館赤ちゃんの駅